

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings.

2005年(平成17年)10月17日(月曜日) (第三種郵便物認可)

M&Aで事業領域拡大

推進掘削やPC橋梁を主体とする機動建設工業が、事業領域の拡大策を打ち出した。9月末に結んだ高弥建設(盛岡市)との業務提携を足がかりに、建築と不動産開発分野での

トップに聞く
事業強化に乗り出す。8月に就任した桐野誠和社長は「今後さらに業務提携やM&A(企業の合併・買収)を進めながら、3-5年後には連結売上高を1,000億円に拡大させる」と意欲的だ。

新株予約権の行使により筆頭株主となったジェイ・ブリッジがグループ戦略として持分法適用会社の同社を建設・不動産事業部門の中核に位置付け、ジェイ・ブリッジ副社長だった桐野氏の社長就任に合わせ、事業領域の拡大に向けた活動が本格的にスタートした。
「特定技術に特化した活動では大きな発展は難しい。請け負いだけではなく、仕事を自らつくり出すしくみに組織を変えることが必要。不動産開発事業を含めた建築分野への対応を強化する」
高弥建設との業務提携はその第1弾となる。新設した不動産開発部門が仕込んだプロジェクトを高弥建設が施工する「パッケージ戦略」もメニューの一つ。「互いに補完し合う関係により、それぞれの強みを水平展開する。建築分野に強い高弥建設の技術力に加え、東北地区でのネットワークは土木分野の受注領域を拡大する糸口でもある」

不動産開発含め建築分野を開拓

中期的な経営目標は、現在約120億円の連結売上高を3-5年後に1000億円に高める。

「M&Aや業務連携により、地場建設業との関係性を深め、グループとして売り上げを拡大する。単体の業績や人材を増やす対応は、組織力を発揮するまでに時間がかかる。グループ企業を増やし、3-5年後には不動産開発事業を含め1000億円を達成したい」
9月末には、不動産バリエータップや事業再生ビジネスなどを推進するファイナンス子会社も設立した。「今後想定される新規事業の推進に向けて、ファイナンス機能や信用保証機能の提供が必要」と判断した。「いま、数社とM&Aに向けた話し合いを進めている。投資という観点から、総合的な判断でグループ企業にふさわしい組織を選ぶことになるが、民間建築に強い企業に魅力を感じている」
10月に入り、事業領域の拡大戦略を社内に浸透させるため、KK(機動改革)プロジェクトチームを発足した。「わが社に足りないのは環境変化への対応力。この課題に対処するため、社員に10項目の提言を示した。これを具体化するのがプロジェクトチームの役目だ。年内に改革の方針を示し、今期中(2006年5月)に実行する」

提言は、経営体制の改革、コア事業の強化、新規事業の拡大に向けた「私からのメッセージ」も。「最終的に経常利益を売り上げの5%まで高めたい。純粋に建設会社として活動した場合、3%を超えることは難しい。不動産開発や金融からの切り口で本業とのシナジー(相乗)効果を発揮しなければ、残り2%の利益を高めることはできない」

(きりの・まごかず)

1982年慶大経済学部卒、同年日本債券信用銀行(現あおぞら銀行)入行。03年営業第九部長、04年営業第三部長。05年4月ジェイ・ブリッジ常務執行役員、同年6月同社副社長を経て、8月から現職。岡山県出身、46歳。

機動建設工業 桐野 誠和氏

